

特集

ブリティッシュ・コロンビア州

太平洋に面し、カナダの中で最もアジアに近いブリティッシュ・コロンビア州。入り組んだ海岸線と大小さまざまな島々、カスケード山脈と海岸山地、そしてロッキーマウンテンのきり立った山々、深い溪谷と幾条もの川——ブリティッシュ・コロンビアは国内で最も美しい州といわれ、また森林、鉱物、水産、水力などの資源に富む、カナダで最も恵まれた地域のひとつである。また州民のおよそ六割を占める英国系をはじめ、ドイツ系、スカンジナビア系、中国系など多様な民族が織りなす文化と、南から入るアメリカ西岸の文化が接触して生み出す雰囲気も、独特のものだ。

ブリティッシュ・コロンビアは、カナダの他の地域と同じく、もともとはインディアンの土地であった。その文化は、今でもトーテムポールや彫刻、織物などに見ることができる。十八世紀に入ってファン・ペレス、ジェームズ・クック、サイモン・フレージャーといった探検家たちがこの沿岸に到来し、毛皮貿易の時代が訪れる。やがてフレージャー川流域で金が発見され、とともに、この地域の政治的地位が問題となる。成立したばかりのカナダ連邦政府は、米国の食指を恐れて、大陸横断鉄道を太平洋沿岸まで延長することを約束。その結果、BC州は一八七一年、連邦に加盟した。



ベネット州首相

大陸横断鉄道が完成したのが一八八五年。ロッキーマウンテンによってカナダの他の地域から分断されていたブリティッシュ・コロンビアは、これで名実ともにカナダと一体化し、またカナダの太平洋側の玄関口となった。

BC州のプロフィール

州都	ビクトリア
州首相	ウィリアム・ベネット(社会信用党)
面積	九四八、五九六平方キロメートル
人口	二、八〇〇、五〇〇人(八三年一月)
主要産業	林産、鉱業、観光、農業、漁業

その後のBC州の発展は目覚ましい。最近だけを見ても、州内総生産は一九六九年の九億八千万ドルから七九年には三十一億四千万ドル、八二年には約三十九億ドルに達し、今年には四十四億ドルに届く予想である。そして人口も、六九年二百万、七九年二百六十万、八二年二百八十万と、全国平均よりはるかに高い伸び率を示した。

こうした発展は、州の地理的条件と豊かな資源に負うところが大きい。まず森林資源は北米全体の四分の一を占め、州の山間部は、銅、石炭、モリブデン、亜鉛、鉛などの豊庫だ。石油と天然ガスも産出する。沿岸はサケやニシン、オヒョウなどの一大漁場であり、また農業も酪農や養鶏、果樹や野菜の栽培など、少ない農地をいかして州経済に貢献している。年間売り上げ約二十億ドルという観光も、州の一大産業だ。

BC州は、さらに、林産品、水産品あるいは農産品の加工や非鉄金属の精錬といった資源を基礎にした従来の製造業に加えて、輸送機器産業や化学産業、機械産業、金属加工業にも力を入れており、また先端技術産業も芽生えてきた。

BC州と日本とのつながりは大きい。昔から、カナダへ移住する日本人がまず腰をおろしたのがここであった。(周知のように、戦前BC州に集中していた日系人は、開戦とともに内陸部へ強制移動させられた。現在の日系人口は一万数千人。)そして今、バンクーバーをはじめ、ビクトリア、ロバートバンク、プリンスルパートなどの各港から、州内で産出される角材、板、合板、新聞用紙などの林産品、石炭や銅などの鉱物、あるいは水産物が、またアルバータ州やサスカチュワン州から鉄道で運ばれてきた小麦、大麦、なたねからしなどが日本向けに船積みされ、乗用車や電気製品など日本からの製品が降ろされる。BC州の港で積まれる物資の(価額にして)半分近くが米国向け、三分の一が日本向けである。石炭やLNGの共同開発も進んでいる。

往来するのは物資だけではない。日本からカナダへ旅する観光客は、ほとんどがバンクーバーを中心にBC州で名所を訪れ、買物をし、釣りやゴルフ、スキーなどを楽しむ。ブリティッシュ・コロンビア大学はカナダにおける日本研究のメッカで、研究者の交流も盛んだ。最近はまだ、「サケよ戻れ」運動でもBC州と日本とのつながりができた。